

高砂神社 大鳥居



江戸時代、港町として賑わった高砂を象徴するような寛文5（1685）年の大鳥居であった。建設には高砂の蔵元らが並べた米俵を支えに大鳥居を建て、建設後はその米を炊き出しに使ったという。その鳥居も平成7（1995）年の阪神淡路大震災で倒壊。その残骸や破片は境内の瓢箪池（ひょうたんいけ）などにモニュメントとして保存されている。その後再建し、現在の大鳥居となった。

